

# NST立ち上げから10年を経て

## ～当院におけるNSTの現状と今後の在り方について～

医療法人凌雲会 稲次整形外科病院

○安本朋人（薬剤科） 藤原直美（栄養課） 谷本直子（看護部） 稲次正敬（医師） 湊省（医師） 稲次圭（医師） 稲次美樹子（医師）

### 1 はじめに

当院が平成17年2月にNSTを立ち上げてから10年が経過したが、NST介入件数は平成23年からほぼ横ばい状態であり、活動内容のマンネリ化が感じられるようになった。

そこで、NST活動を再度活発にし他の委員会との連携体制を築き、リハビリテーションに特化した病院として、より良い栄養管理を再構築することを目的とし職員の意識調査を行ったのでここに報告する。

### 2 方法

NST委員で現状についての問題点の洗い出しをするとともに、一般職員70名（医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士）に対しNST 活動に対する認識や内容の理解などについてアンケート調査を実施し、問題点を抽出する。

### 3 結果

NST委員からは、職種間でのNST活動に対する温度差、委員会参加による業務負担、摂食嚥下、褥瘡対策委員会との連携不足、一般職員からは、NST活動の内容に対する認知不足、NST回診記録の未活用などの結果が得られた。

### 4 まとめ

NSTカンファレンスやラウンドを管理栄養士が主体となり実施することで、看護師の業務量や精神的な負担の軽減となった。また毎月1回NST、摂食嚥下、褥瘡対策委員会が合同でラウンドやカンファレンスを実施することで、問題点や介入方法を共有し、それぞれが専門的に関わり、多角的に患者の状態をとらえ、相乗効果が得られ、NST活動が活発となった。広報活動としては、院内にNST介入状況や介入事例、介入結果などを作成し掲示することで一般職員に対し、NST活動の内容についての理解を広げた。

今回初めて職員に対しアンケート調査を実施したが、NST委員の予想に反し、NSTの活動内容についての認知度の低さが明らかとなった。一方でNSTについて勉強したいという意見も多かった。勉強会の開催、委員の任期制度などについては開始したばかりで、結果は今後期待するところではあるが、引き続き他の委員会との連携などを図り、多くの意見を取り入れ、少しでも今よりNST活動が活発となり、患者に適切な質の高い栄養管理を効率的に行い、治療の促進につながるよう努めたい。